令和６(2024)年度
南和広域医療企業団南奈良看護専門学校
【公募推薦・社会人】入学試験問題

国 語 総 合

注 意 事 項

１　試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。

２　試験問題は、問題１から問題15までです。試験時間は、50分です。

３　問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。

４　解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。

５　マークは、解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。

６　試験中に問題の落丁・乱丁に気づいた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。

７　問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏　名	

第1問　次の各問いに答えなさい。

問題1　傍線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

（1）
① 重要案件の進捗（しんちゃく）状況を確認する。
② 豪雨被害の暫時（ぜんじ）的な支援策を講じる。
③ 彼の誠実な人柄が、班長である所以（いわれ）だ。
④ ああ見えて彼はなかなかの曲者（くわせもの）だ。
⑤ 彼の誘いを婉曲（えんきょく）な表現で断った。

（2）
① この肥沃（ひよう）な土地で農業を始めたい。
② 彼女の経歴は市井（しせい）で噂になるほどだった。
③ インフルエンザに罹患（らかん）してしまった。
④ 呆気（のんき）にとられて、その場に立ち尽くした。
⑤ ここは所謂（しょせん）お化け屋敷みたいな家だ。

問題２　傍線部の漢字や語句の用法が正しいものを一つずつ選べ。

（１）
①　あの人は感授性が強くて素敵な人物だ。
②　引越しをして閑静な住宅街に住んでいる。
③　展覧会に出品した絵が購評される。
④　事故の原因については言求しなかった。
⑤　市民に景鐘を鳴らすのが市長の役割だ。

（２）
①　君のような助っ人が来てくれたら百人力だ。
②　優れた実績から見て、彼への扱いは力不足だ。
③　負けず嫌いな彼の試合は、いつも世間体が悪い。
④　これは作家である彼の試金石を堪能できる小説だ。
⑤　専門用語が多くて好事家には理解するのが難しい。

問題3　次の傍線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

（1）コウ妙な手口にすっかり騙された。

① 彼は必死に抵コウをした。
② 薬のコウ果がそろそろ現れる。
③ 技コウをこらした細工だ。
④ コウ外に大きな家を建てた。
⑤ 過去の過ちをコウ悔している。

（2）いい商品だから友人に推ショウする。

① 古代のショウ形文字を勉強している。
② 警察は犯人のショウ体を知っていた。
③ 彼女はもうすぐ部長にショウ任する。
④ ショウ学金で大学に通っている。
⑤ あの映画は国内でショウ賛された。

問題4　次の言葉の意味として正しいものを一つずつ選べ。

（1）不言実行

①　強い意志をもって、どんな困難にもくじけないこと。
②　あれこれ言わず、黙々とすべきことを行うこと。
③　他人の意見や批評に惑わされず進めること。
④　誰にも相談せず、自分一人の判断で行動すること。
⑤　口にしたことは、何が何でも成し遂げるということ。

（2）浮足立つ

①　怒りで我を失っている様子。
②　慌てることなく冷静な様子。
③　不安で落ち着かない様子。
④　恐怖でおびえている様子。
⑤　嬉しくて驚いている様子。

（3）気が置けない

①　相手に気を遣って、油断をしないようにするさま。
②　相手が意外にも、知識や才能があって憧れるさま。
③　相手の目が気になって、思い通りにできないさま。
④　相手に遠慮する必要がなく、打ち解けられるさま。
⑤　相手の態度に気を使い、申し訳なくしているさま。

問題5　次のうち「朗報」と最も近い意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

①　予報
②　悲報
③　吉報
④　警報
⑤　既報

問題6　次のうち「妥協」と反対の意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

①　不平
②　決裂
③　折衷
④　対極
⑤　満足

問題7　次の【　　】の場面での言い方として正しいものを一つ選べ。

【電話の相手の名前を聞くとき】

お名前を（　　）。

①　申していただけますか
②　拝借してもよろしいですか
③　おっしゃられませんか
④　伺ってもよろしいでしょうか
⑤　お申し付けください

第2問　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

鳥は、本当に自由なのだろうか。私はそうではないと思う。鳥はいわば空の中に閉じこめられている。魚も同様で、水の中に閉じこめられている。鳥は空を「空」とは呼ばず、魚も水を「水」と名づけることはない。人間がするようには自分の住む世界を対象として捉えることがないからだ。人間は言葉を用い、空を「空」と呼び、海を「海」と名づけた。いわば（　　ア　　）。その意味で人間は、世界に閉じこめられてはいない。言い換えれば人間は、鳥や魚と同じような意味では「自然（＝世界）」の中に生きていない。おそらくこのことが、人間、とりわけ若い皆さんが世界と自分との間にズレを感じる理由だ。

重要なことは、このズレがあるからこそ、人間はほかの動物のように自足することができず、自分が生きる世界を絶えずつくり替えていかなければならないということ。例えば、森を切り拓き、田畑をつくる。これこそ人間だけが持っている自由であり、人間が自由である証しなのだが、見方を変えれば、その自由に閉じこめられているともいえなくはない。人間は、自分が生きている世界と自分との間に越えがたいズレを感じながら、（孤独ではあるけれども）自由に、世界を学び、世界を自分に合うようにつくり替える努力を積み重ねてきた。それが歴史ということ。私たちは今、その結果としての世界を生きているのだ。

しかし現代において、人間が行っている世界のつくり替えは、あまりにも高度で複雑だ。例えば、地下鉄を通したり、ジェット機を飛ばしたりしているが、そのために何が必要かを挙げてみればわかる。Ⓐ まず、言葉を知らなければならない。世界の仕組みを理解して記述するには、数学がなければならない。物理学も工学も欠かせない。いくつものことを積み重ねて、ようやくジェット機が一機、空を飛べる。

そうした数学や物理学、工学は、自然そのものではなく、人間が自然を学びながらつくり出した体系であるから、学ぶことには二段階あることになる。星の運行から暦をつくり、めぐる季節の知識を生かした耕作や狩猟を行うなど、自然を学ぶことが第一段階だとすれば、自然を学んだ人間がつくり出したものを学ぶことが第二段階だ。現代を生きる我々には、この「二重の学び」が宿命づけられており、この第二段階のために特に必要とされているのが学校ということになる。

人間がつくり出したものは数えきれず、一人では到底学びきれない。Ⓑ 人間は学ぶべきことを増やしすぎたのではないかと思うほどだ。研究分野の細分化も近年ますます進行している。例えば、脳の「海馬」という部分を研究している脳科学者の知人がいる。人間は何かを学ぶたびに海馬の最深部で「新生ニューロン」という神経組織を生成している。知人はこのメカニズムを研究しているのだが、同じ研究に取り組む研究チームは世界におよそ一〇〇チームもあり、日々成果を競っているという。

たしかに、何をするにせよ勉強して覚えるべきことは多い。新生ニューロンに限らず、何か新発見をするほどの研究者になりたいのであればな

おさらだ。しかし知識量で勝る者が強者かというと、現実はそうなっていない。実は新発見というものは、発見者が一五〜一六歳の頃からその種を自分の中に宿していることが多い。つまり、あなたたちの年になにかの「種」が宿されるということ。これは分野によらない。このことが端的に示しているのは、世界を変える力は知識ではなく「若い力」だということだ。若い力とは「知らない」力であり、「知っている」ということよりも「知らない」ということのほうが重要なのである。

理由の一つが「エラー」、（ イ ）「失敗」する可能性だ。膨大な知識の体系に分け入った若者は、それを骨肉化しようとするとき、誤った理解をすることもしばしばある。Ⓒ 物事は、教えられたとおりに学ぶとは限らないからだ。新発見は、それまでの常識からすればエラー、あるいはアクシデントと呼ばれる事態の中でなされることが多い。人間が何かを成し遂げる力は、エラーにこそある。生物としての人類もそうやって進化してきたはず。突然変異というエラーを利用することで環境に適応し、生き残ってきたのだから。歳をとると失敗を恥じるようになり、エラーを起こせなくなっていくが、エラーを恐れてはならない。(ｴ)若さとは、弱点であると同時に世界を変えていく力でもあるのだ。

物理学者のある友人は、高校で教わった「虚数単位」が大人になってもずっと頭にひっかかっていたという。虚数単位は−1の平方根だと説明されても「よくわからない。気持ち悪い。なんかおかしい」という思いを、彼は長い間、頭の片隅に置いておいた。三〇年後、彼はその虚数を利用してまったく新しいタイプの電子顕微鏡を発明するのだが、皆さんの年頃に抱いたほんの少しの違和感と疑問を持ち続け、(ｵ)それが花開いたのだという。

「知らない」ことは大きな力にもなりうる。エラーをする可能性はおおいにあるが、それは、誰も考えつかなかったことを行う可能性でもある。学校では「間違えてはならない」という雰囲気が形成されがちだが、それは世界を変える力を逆に失わせてしまうことになるかもしれない。

何かを学んでいこうとするとき、「好き」という感覚ほど強い味方はない。一方、「嫌い」という感覚は、学びにブレーキをかける。好きなことはいくらでもできるが、嫌いなことはやりたくない、と。加えて、好きや嫌いという感覚は個人的な感覚だから、誰かに「私はリンゴが好きだ」と言ったとしても、「それは君が好きなだけ、僕はバナナが好きだ」と返される場合が少なくない。好き嫌いは何かをブロックしてひとりよがりな世界を生み出すことがあるのである。Ⓓ

（ ウ ）、内面でわき起こる好きや嫌いは、大切にしなければならない。それが人生をつくっていくのだから。だが何かを本当に学ぶためには、好き嫌いの感覚を、さしあたり停止して、どうして好きなのか、どうして嫌いなのかを正視しなければならない。矛盾していると思うだろう。しかし、数学の勉強が嫌いなら、どこが好きでどこが嫌いなのかを考えてみてほしい。考えることが、単なる好きや嫌いの感覚から距離を置くことを教えてくれるから。それが学ぶことの第一歩。今のうちにその術を身につけてほしい。好きだから、嫌いだからで終わってはいけない。

学ぶためのもう一つのポイントは、全体を見ること。Ⓔ 全体だけを見ていても絶対に自分のものにはならない。これも矛盾していると思うだろ

う。だがスポーツを想像すればわかりやすい。スポーツは単に肉体の問題ではない。例えば野球では、筋力を鍛えさえすればホームランを打てるわけではない。筋力だけでなく、身体全体を考え、何かポイントをつかむことでバッターとして成長できる。人はそれぞれ「癖」を持っているものだが、それを捨て、自分なりのポイントをつかむことが基本だ。

これは思考の基本でもある。人間がものを考えるとき、公理から出発することはありえない。全体の*コンテクストをぼんやりと視野に入れながら、その中で手がかりを見つけて考えを進める。A＝B、B＝C、C＝Aといったような論理は、考え抜いたあとで、他者に説明するために組み立てる表現だ。事件現場に立つシャーロック・ホームズを想像してほしい。彼は、現場全体を見ながら、頭の中ではそれまでに集めた証拠品のイメージや証言を繰り返していることだろう。全体を見ながら、どこかに特異点を見いだそうとしているのである。さまざまな要素があり、それらがどういう関係にあるのか、そしてそれらの関係がどう全体をかたちづくっているのかを見ていくのである。

(カ)こうした思考は、数学でも国語でも、研究でもビジネスの現場でも変わらない。「文科系と理科系ではアタマの使い方が異なる」などと思い込んではならない。原則は同じなのだ。文章全体を見ていながら、どこかに必ず文章全体にかかわるひっかかりがあるはずだ。それをつかむ。そのポイントを自分なりに展開することで人間はものを考え始めることができる。学校の勉強には正解が用意されている。皆さんが誤った答案を書けば、間違いを指摘される。だが皆さんに課されているのは、正解を知ることではなく、頭の働かせ方を学ぶことだ。この学びは、たんに知識を蓄えることではなく、自分自身を変えていくことにほかならない。全体のコンテクストがあり、その特異点をつかんで全体をもう一回つくり直す。これは自分の世界を自分でつくり直していく力でもある。

（出典　小林康夫著『学ぶことの根拠』ちくまプリマー新書）

〈注〉

*コンテクスト…本文では「文脈」「前後関係」という意味で用いている。

問題８　次の文章は本文の一節である。挿入個所として最も適切な場所を一つ選べ。

それと同時にどこか一点を見なければならない。

①Ⓐ　②Ⓑ　③Ⓒ　④Ⓓ　⑤Ⓔ

問題９　空欄（　ア　）に当てはまる文として最も適切なものを一つ選べ。

① 鳥や魚と似たような世界で人間は生存している
② 世界と自分をはっきりと分けて認識している
③ 人間は自然の中で囲われて自己を確立している
④ 周囲と自己を明確に区分せずに存在をしている
⑤ 世界が人間を明らかに別物だと区別をしている

問題10　空欄（　イ　）（　ウ　）に当てはまる語句の組み合わせとして最も適切なものを一つ選べ。

①（イ）すなわち　（ウ）だから
②（イ）例えば　（ウ）とにかく
③（イ）つまり　（ウ）しかし
④（イ）むしろ　（ウ）一方
⑤（イ）あるいは　（ウ）だが

問題11　傍線部（エ）「若さとは、弱点であると同時に世界を変えていく力」とはどのようなことか。該当しないものを一つ選べ。

① 知識や年齢の増加よりも、若い時に抱いた「種」を持ち、失敗を恐れない「若い力」のほうが世界を変える可能性を持っていること。
② 「若い力」とは「知らない」力であり、それは失敗を引き起こす可能性は大きいが、新たな視点で世界を変えられる力でもあること。
③ 失敗を恥じることのない、若い時に宿った「種」や若い時の「知らない」力は、失敗の中から新発見を世界に生み出す力があること。
④ 「若い力」で行動する中で生まれた「種」が、問題が発生しない環境で成長することによって世界に変化を与える力を持つこと。
⑤ 「若い力」という「知らない」力を持っているうちに、エラーを恐れず行動し、エラーから新しい発見が生まれる可能性があること。

問題12　傍線部（オ）「それが花開いた」のはどのようなことか。最も適切なものを一つ選べ。

① 友人が若い頃から分からなかった「虚数単位」の説明を、後の勉強で理解し始めたこと。
② 友人が昔感じていた「虚数単位」の違和感が、別の分野での新しい発見に繋がったこと。
③ 友人が高校生で教わった「虚数単位」の知識が、新しい発明品として成果を出したこと。
④ 友人が昔から培ってきた「虚数単位」の考え方が、後の発明で正しいと証明できたこと。
⑤ 友人が若い時から持っていた「虚数単位」の疑問が、後の新しい発明に結びついたこと。

問題13　傍線部（カ）「こうした思考」とはどのようなことか。最も適切なものを一つ選べ。

① シャーロック・ホームズが、現場を全体的に見ながら、手がかりを基に物事の関連性を見つけるように、距離を置いて全体を見ること。
② バッターが自分の「癖」を捉えながら筋力を鍛えることで成長するように、自分の思想と身体の特徴を理解して特異な考えをすること。
③ 学問やビジネスなど、異なる分野においても共通の原則となる、全体を見る視点を持ちながら世界に対し疑問を覚える見方をすること。
④ 文科系や理科系の思考に関わらず、自身の癖や独自のアプローチを持ちながら、重要なポイントを把握し、それを展開して考えること。
⑤ 人が考えを展開し始めるとき、単に断片的な知識や情報だけでなく、先に公理的な事例を整理してから重要なポイントを推測すること。

問題14　筆者は人間の存在と自由について、どのように論じているか。最も適切なものを一つ選べ。

① 人間は、自然とのズレで学んだ「自由」があるため、非自然の中で自己を学習すると論じている。
② 人間は、自己の非自然的なあり方に由来する「自由」を持っているから学ぶと論じている。
③ 人間は、自然を通し世界や現代の技術を学ぶことで、非自然的な自己が存在すると論じている。
④ 人間は、自然の学びや学校教育を受けることで、非自然的な人間の「自由」を得ると論じている。
⑤ 人間は、非自然的な自己を形成するため、言語を用いて「自由」を獲得すると論じている。

問題15　次の本文の内容について説明したA～Eのうち、正しいものはいくつあるか。

A　地下鉄やジェット機などの現代技術は、数学や物理学、工学などの知識を基にしていて、学校はこれらの自然そのものから生まれた知識を伝える場である。

B　「若い力」は知識に基づく力と同じくらい重要であり、自分にしかわからない小さな違和感や疑問を大切にすることで、世界をつくり変える発見をする。

C　若いときに感じる、世界と自分の間に感じられるズレには、将来開花するであろう「種」があり、この「種」を心の中に宿しておくことが大切である。

D　好き嫌いの感覚は個人的な感覚であり、時に障害ともなりえるが、好き嫌いの理由や背後にある要因を考察することで、学びの幅を広げることができる。

E　勉強で間違った答えを指摘されることで、自分の知識を向上させることができるが、勉強で肝心なことは、正解を知ることよりも考え方を学ぶことだ。

① 一つ　② 二つ　③ 三つ　④ 四つ　⑤ 五つ